

第38号 通巻第8巻第3号

1988年4月25日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

「褐色の耕土が露になった水田が連綿と視野の大半を占め、野洲川の堤防や畦道の草木の緑は沈鬱な色彩でしかありません。」これは、思い返せばわずか以前の埋蔵文化財センター周辺の景観ですが、今は方形の水田は一区画、また一区画と早苗の緑が褐色を覆い、草木の萌え黄色も次第にその存在を拡大しています。

自然界では一年でいちばん活気にあふれた季節の到来であり、また入園入学、就職といった社会生活の節目の月でもあり、希望に満ちあふれた毎日を過ごされている方も多いのではないのでしょうか。

さて、この時期当センターに携わる職員にも異動がありました。下記の職員によって、今後埋蔵文化財を皆さんの生活により役立てていただくため、特別展等の開催や埋蔵文化財調査の実施を進めていきます。来館された際に、分からない事がありましたら気軽に御質問下さい。

(所長) 勝見一寛 (係長) 岩松正和 (主任) 山崎秀二  
(主事) 岩崎 茂 (主事) 畑本政美 (主事) 宮下睦夫  
(調査員) 畑本陽子 (調査員) 伴野幸一

### — 発掘調査だより —

昭和63年度がスタートして、もうすぐ1ヶ月になります。今年度もたくまの遺跡発掘調査が予定されており、既に開始した調査や近々開始予定の調査があります。実施中の調査は、まだ成果を報告するには至っていませんが、その動向についてお知らせしたいとおもいます。

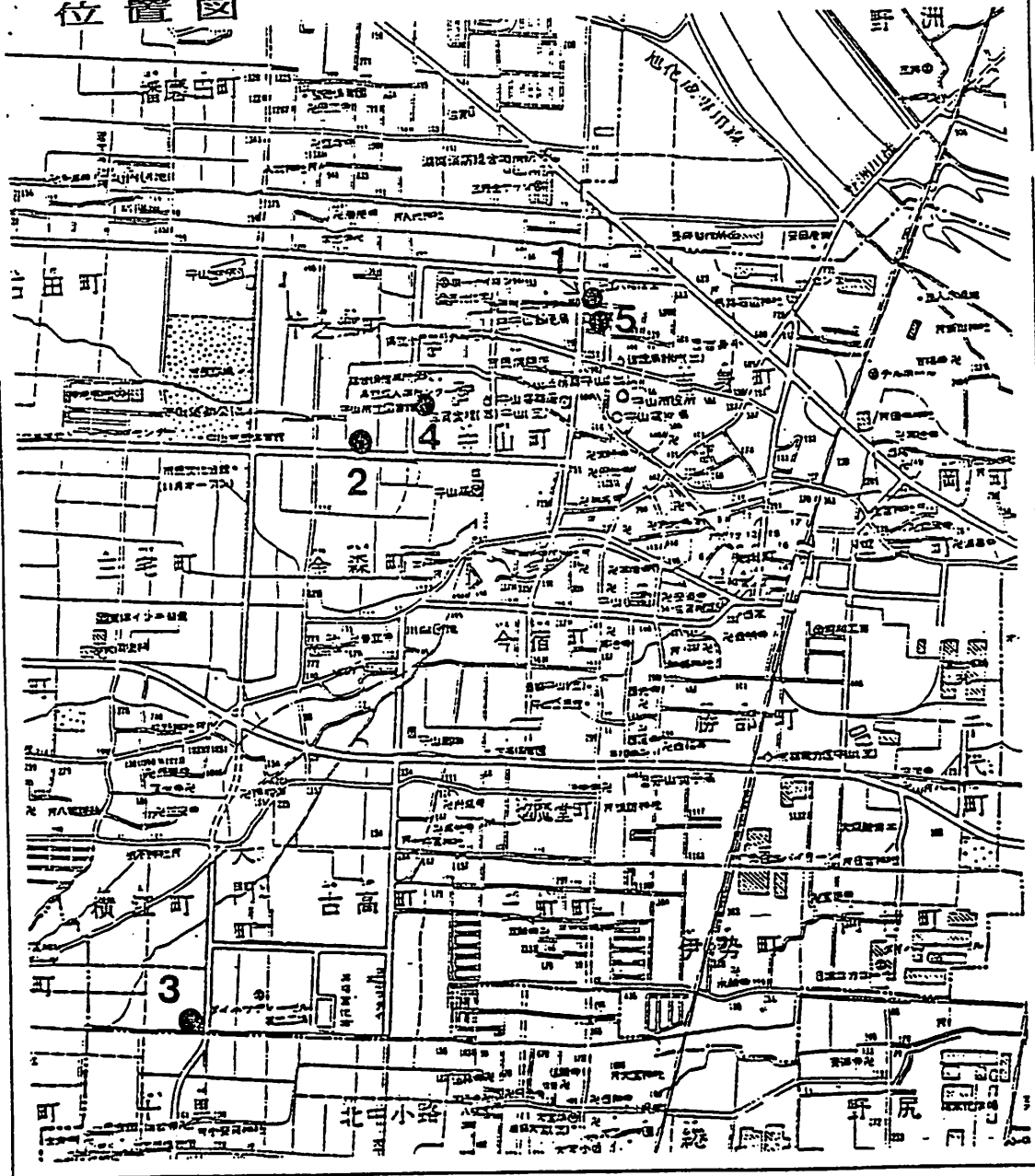
#### 横枕<sup>よこまくら</sup>遺跡の調査(位置図1)

守山町に所在する宅地で、4月19日より調査を開始しています。横枕という遺跡名称をはじめて読まれる方がいると思います。当地域は、従来吉身西遺跡と二ノ畦遺跡の両方の分布が及ぶものと考えられていました。しかし、発掘調査を実施していくにつれ、弥生時代中期に形成された集落が徐々に検出されてきました。この集落は吉身西遺跡の集落の広がりとして一つにまとめるには

間的に無理があり、また環濠集落である二ノ畦遺跡の集落の一部と考へても、今まで知られてきた集落とは分離した集落になるのではないかと考へられるため、当地域の代表的小字名から横枕遺跡と命名されました。

横枕遺跡の集落が二ノ畦遺跡の集落を巡る濠の内、外側どちらに位置するのか、二ノ畦遺跡、吉身西遺跡そして下之郷遺跡の集落とどのように関り合うのかを今後の課題として調査を進めていきます。

### 位置図



### 金森東遺跡の調査（位置図2）

金森東遺跡は、これまで守山高校の東西両側で宅地開発に伴う発掘調査を実施しており、弥生時代中期～奈良・平安時代に及ぶ生活跡を検出しています。とくに高校西側の調査（現在の山柿団地）では、弥生時代後期の方形周溝墓や古墳が合計32基みつき、庭塚古墳が現存しているなどを考え合わせると大変興味深い遺跡です。

今回の調査地は山柿団地から元町、杉江線を越えた北西向かいの水田地約1900㎡です。一体どのような性格の埋蔵文化財が眠っているのでしょうか。調査は4月21日から5月下旬の期間で実施しています。次号「乙貞」でその成果を報告できそうです。

### 下長遺跡の調査（位置図3）

守山市域の南西辺にあたる古高工業団地には、市の史跡となっている古高古墳群（松塚、幸田塚、狐塚の3基）をその範囲に含める下長遺跡が分布しています。この遺跡は昭和58年度実施調査で、「素文鏡」が2点出土するなど古代の祭祀がとりおこなわれた場ではないかと推察していますが、未だ不明瞭な点が多くあり、今回の調査成果が今から期待されています。調査地は工業団地の一面にあるダイハツディーゼル守山工場北西側の水田地で、5月中旬より着手します。

### 吉身西遺跡の調査（位置図4）

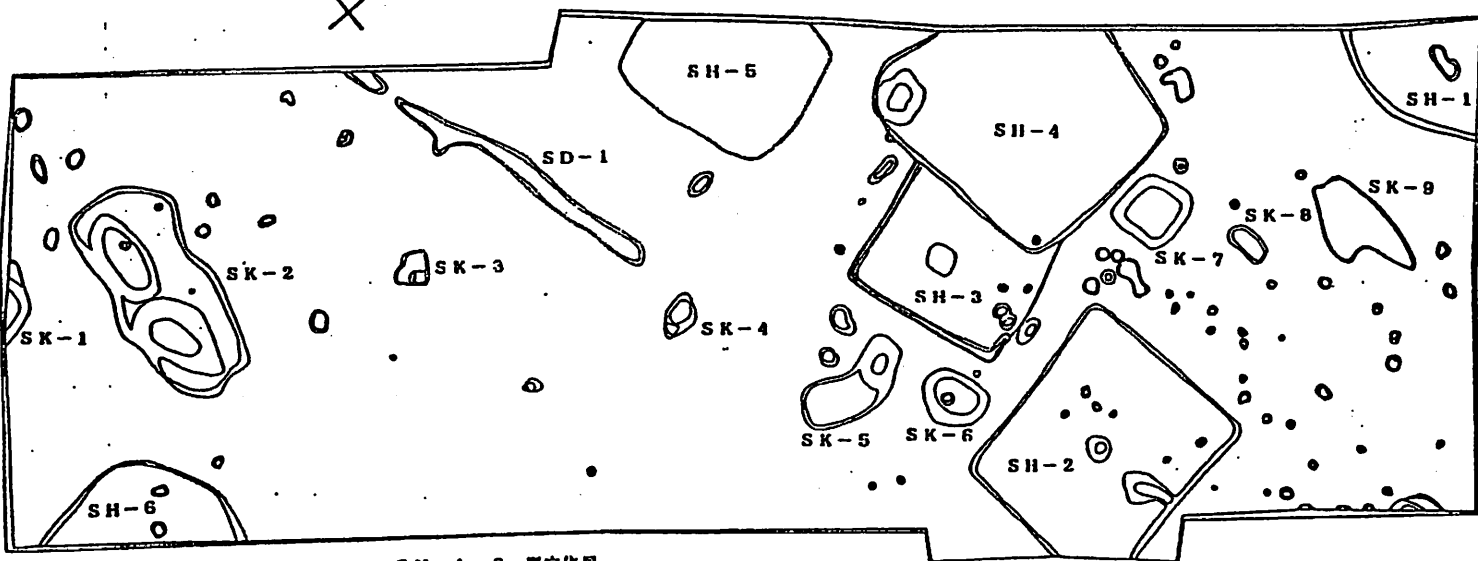
市立図書館の増設工事に先立ち実施される調査です。吉身西遺跡は目安として県立成人病センターを中心に分布する遺跡で、近年数多くの調査が行なわれています。今回の調査地の北東側に接する「目田川」改修工事の用地でも、昭和59年の調査の結果、古墳時代後期（6世紀）の竪穴住居や掘立柱建物などの跡を検出し、この時期ここに集落があった事を確認しています。竪穴住居からは滑石を材料にした玉製品（勾玉や管玉など）、未製品、剥片が多数見つかり「玉つくり」が行なわれていたようです。その延長を5月中旬より発掘調査します。

### 二ノ畦遺跡の調査成果（位置図5）

吉身町で実施していた二ノ畦遺跡の発掘調査が、3月12日で終了しましたので、調査の概要を報告いたします。

二ノ畦遺跡は弥生時代中期末（約1800年前）の環濠集落として周知されている遺跡です。今回の調査地も集落を巡る環濠の内側に位置するものと考えられ、検出した遺構は、竪穴住居6棟、（SH-1～6）、土坑9基（SK-1～9）、

## 二ノ畦遺跡調査平面図



SH-1~6 瓦穴住居  
 SK-1~9 土坑  
 SD-1 溝

溝1条(SD-1)、柱穴30穴以上を数えます。竪穴住居は、地面を四角く掘り込んだ住居(方形住居)が4棟、丸く掘り込んだ住居(円形住居)が2棟という内訳になります。これまで二ノ畦遺跡は比較的短期間営まれた弥生時代中期の集落と考えていましたが、図のように竪穴住居SH-3と4が重複している事から、時間幅をもった集落である事が分かりました。

遺構に伴って、遺物は弥生土器約150点、石斧、砥石1点ずつが出土しました。弥生土器には、中期の典型的な文様である凹線文をもつ土器はもはやみられず、石ぞくや石斧などの石器類が極めて少ない事、竪穴住居には円形と方形の住居が共存する事などから、弥生時代中期でも最も新しく、後期へ移行しつつある時期と考えることができます。

### — センターの整理作業 —

年間数十件実施する遺跡の調査で収めた成果(住居跡などの検出遺構の実測図面や写真、出土した土器やその他の遺物など)は、このセンターで整理されます。出土遺物(特に土器など)は完全に形を保っているものは希で、そのほとんどが数十片に割れた状態でみつかるため、その接合を行い、元の形に修復していき、そしてそれを実測、図化します。検出遺構とそこから出土する遺物を合わせて分析することによって、その遺跡の性格を推察することができます。調査の成果は「報告書」にまとめあげられ、守山の歴史を解明するために役立てられるのです。

以上が大雑把な整理作業のあらましです。現地の調査とともに大変時間がかかるのですが、この作業を経て、はじめて遺跡の調査は終了します。現在当センターで行っている主な遺跡調査の整理作業を紹介します。

#### (1) 横江遺跡発掘調査の整理

昭和58年から4年半実施した横江遺跡の調査(住宅地、現在の「弥生の里」  
県文化財保護協会主体調査)では、中世の集落跡から、その当時の生活に  
使われた日用品が多数出土しています。

#### (2) 吉身西遺跡発掘調査の整理

昨年実施した調査で、縄文時代後期の集落跡を検出しています。(春季特別展に展示)

#### (3) 川原田遺跡発掘調査の整理

昨年度、道路建設に先立ち実施した調査。古墳時代後期、奈良時代の遺跡から莫大な数の遺物(土器や木器、特に墨書土器、木簡は貴重)が出土しています。(春季特別展に展示)

#### (4) 下之郷遺跡発掘調査の整理

昨年度実施した下之郷遺跡の調査で集落を巡る環濠を検出し、その中から弥生時代中期のくらしぶりを知ることのできる多数の土器、石器そして木器を検出しました。(春季特別展に展示)

### — 春季特別展開催のお知らせ —

埋蔵文化財センターでは昭和63年度年3回(4～5月、8月、11月)の特別展を開催していく予定ですが、第1回目の特別展を下記のとおり開催いたします。昭和62年4月～63年3月の間に12遺跡25件の発掘調査を実施しました。25件の調査で見つかった先人達の足跡は多様で、縄文時代後期～鎌倉時代に及びます。例えば、吉身西遺跡では縄文時代後期(約4000年前)の竪穴住居と土器や石器などの日常生活品、祭祀具が見つかりました。平地からの縄文時代の竪穴住居は滋賀県内をみわたしても珍しく、吉身西遺跡の新たな側面を発見したことになります。川原田遺跡から出土した奈良時代の墨書土器、木簡には「野洲」や「宮殿」などの文字が書きしるまわれています。約1200年も昔の人々も今のわたしたちの読み書きする文字を使っていたのです。このように、いずれの調査も守山の歴史を考えていく上で、大変有益なものであると評価できます。

今回の特別展では、このうち7件と昨年度県教育委員会が市内で実施した小津浜遺跡の調査成果を報告いたします。

#### 記

- I 開催テーマ 「昭和62年度調査速報展」
- II 開催期間 昭和63年4月29日(祝)～5月8日(日)  
〔開館時間〕午前9時～午後4時  
(特別展開催期間内は休館日はありません。入館無料)
- III 開催行事 5月3日(祝) センター2階会議室  
スライド会 午後1時～2時  
(「昭和62年度調査成果」をテーマにして、今回展示できない部分をスライドを使って報告します。)  
講演会 午後2時～3時30分  
(演題は「水辺の遺跡」。山賀町に所在する小津浜遺跡の発掘調査を担当された(財)滋賀県文化財保護協会技師 岡本武憲 氏に琵琶湖岸の古代について講演いただきます。)